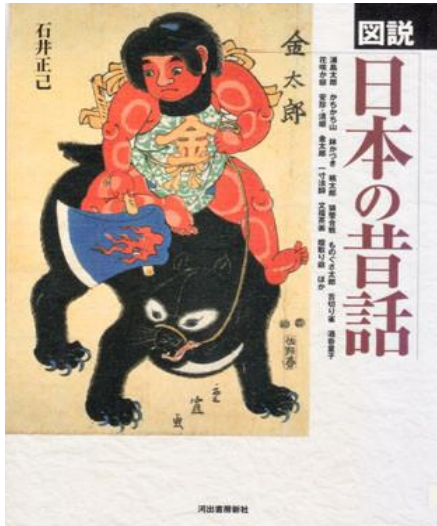


滋賀県湖北 伊吹山麓 近江国旧坂田郡 長浜市西黒田に残る金太郎伝承



坂田金時 金太郎さんは 古代の鍛冶集団・鉄の古代豪族 息長氏の子供だという
 それで 赤い顔して 金印の腹当てをして鉞をかつぐのだという
 初めて知る 息長氏の本拠地・長浜に伝わる金太郎の古代鉄との治つながり伝承



坂田金時といえは「相模の国 足柄山の金太郎さん 熊にまたがり、お馬の稽古。成人して、大江山の酒吞童子を退治をした源頼光の四天王の一人に」と童謡・絵本通りに信じていましたが、先日 TV を見ていたら、「坂田金時」は滋賀県長浜の出身で、鍛冶集団の息子として誕生したという。長浜は滋賀県坂田郡 そして近くには足柄山もあるといい、童謡・絵本に登場する「赤い顔して金印の腹当てをして、鉞をかつぐ姿」。それは鍛冶集団の象徴なのだという。そういえば湖北はたたら製鉄の先進地であり、古代の豪族で北陸の継体天皇を擁立した鍛冶集団息長氏の本拠地でもある。そして、背後にそびえる伊吹山にも数々のたたら伝承が残る。そうだったのか・・・ 金太郎さんは古代の鉄鍛冶伝承の一つとの見方もあるのか・・・と。

坂田金時にはこの相模や近江のほか日本各地に種々異説があり、湖北長浜の伝承もその一つ。伝承の残る長浜西黒田地区では、この坂田金時の伝承を街にしっかり残そうと、町興しが推進されているという。

「たたら伊吹山」と言いながら、なかなか近江側の伊吹山とたたら製鉄が結びつかないのですが、こんなにすぐ近く長浜の街にたたらでんしょうのひとつとして金太郎伝承が残っているとは知りませんでした。

ぜひ、今年は伊吹山に登りがてら、金太郎伝承の長浜西黒田の街を歩いてみようかと・・・

近江の不思議 ”金太郎” こと坂田金時は、旧坂田郡の人だった？

https://www.keibun.co.jp/saveimg/mizuumi/000000026/pdf_sub_208_20150925103446.pdf

滋賀銀行 季刊文化情報誌「湖」 / 2015 秋号 2015.9.25. より

足柄山も、足柄神社も、長浜にある！



もじろは金太郎に由来するのではないかと思える。
西黒田地区で金太郎伝説を話
かしたまわつて始まったのは、
一九九八年平成十年のこととい
う。もじろの地には古くから

金太郎伝説があったとしても、そ
れは郷土史に関心を持つ人たちが
語る程度で、まちづくりに着手し
た当初は住民の大半が、あの有名
な金太郎サンが、と平信平だっ
たさだ。

坂田で生まれ育った金太郎

長浜の金太郎伝説とは、どうであ
る。金太郎は平安時代中期、近江
国坂田郡布勢郷現在の長浜市西

黒田市勢町にこの地に勢力の
あつた古代家族、息長氏の一族と
し生れ育つた。布勢と隣りあつた小
一帯は昔番所ぼんぼんといふ時
ばれ地があるが、それは、乳母が
懐妊がなつたため、金太郎とい
の辺りに乳母に看取られたとい
ふ伝説がある。いまもお地蔵さんが
祀られ、母乳を授かる授乳地蔵と
して信仰を集めているのは、そのよ
うな由緒からだといふ。

こうして、すくすく育つた金太郎は、熊岡山現在の熊岡神社や足柄山、列見山で熊と相撲を取った。舟崎現在の米原市の里す地にて、動物たちとかけっこをして遊んだ。怪獣を倒し、発揮やがて青年となり、地元で鍛冶仕事に就く。当時の地には製鉄業が盛んで、金太郎のトレードマークである赤い肌、金の字の服



11 2015 Autumn

“金太郎”こと坂田金時は、旧坂田郡の人だった？

まさかりがつかない金太郎サンは、なんと近江出身とい説があるのをご存知でしょうか。湖北を駆け回って元気に育つた金太郎が、長じて坂田金時を名乗ったのです。

近江の不思議



長浜市西黒田に「金太郎の里」がある
日本全国知らない人はいないといえる金太郎サン。気は優しく力持ちのキャラクターは、五月人形でもおなじみだ。しかし金太郎といえは足柄山。それは根拠固まり箱根に近い東国の伝説だとばかり思ってきたのだが……。いや、はや近江の長浜に、金太郎伝説が伝わっているとは驚いた。ささく、金太郎の里、長浜市西黒田を訪ねると、こゝには足柄神社がある。足柄山ともある。旧坂田郡で盛んな奉納相撲

2015 Autumn 10

金太郎伝説で住民一丸となってまちづくり



掛け「まさかりは、古代の製鉄作業を表すといわれた。
二十歳を過ぎた金太郎に、大きな転機が訪れる。頼光と上総守の任命を終え、頼光がその部へ戻る途中、琵琶湖に沈む黒田海道を足柄にししかたききこの

と頼光は付添にならぬ気配を感じ、家臣の渡辺綱に探させると、そこにいたのが金太郎。頼光に請われ、金太郎は家来として郡に上る。この決心、頼光四太夫の部へ坂田金時と名乗る。頼光の部へ出向く。金太郎は有名だ。

金太郎は息長の子孫か
長浜市の南東部にある西黒田地区は、もじろと金太郎伝説の地。頼光は、古くから「金太郎の里」として知られる。頼光の部へ出向く。金太郎は有名だ。

「横山」がその名の通り龍が伏せように横たわり、その西麓に西黒田はあり。代々、この坂田の地を治めた有力家族は息長氏。その息長長子、金太郎を養ったのは、足柄山。頼光の部へ出向く。金太郎は有名だ。

室をたぐり、次に金太郎のまじりかた。こは○町とい町名案内板が、こは○町と設置して有志が結成したまじりかた。伝説普及のための出版講座に地区内を駆けまわった。

足柄山の金太郎伝説は、神奈川から静岡まで六市町にまたがた。こは○町と見えて、この金太郎の出身や成長伝説が伝わっているのは、東国の足柄山周辺のみならず、長浜だけである。

二〇〇一年には、第四回全国金太郎フェスティバルが長浜市黒田で開かれた。イベントは、神奈川県南足柄市から始まり、西黒田地区も同じ伝承地として視察訪問を受けた。その際、足柄山の方に坂田を地名にうける長浜市と各地の方々と交流し、金太郎を通して

け、私たちの地と伝説の内容がよく似て、近江は歴史が京都都府にも近く、伝説発祥の可能性も。と目撃され、イベント開催地に選ばれた経緯がある。

13 2015 Autumn



2015 Autumn 12

“金太郎”こと坂田金時は、 旧坂田郡の人だった？

マサカリかついだ金太郎サンは、なんと近江出身という説があるのをご存知でしょうか。
湖北を駆け回って元気に育った金太郎が、長じて坂田金時を名乗ったというのです。

近江の不思議



金太郎伝説のある西黒田の集落。右の写真は西黒田公民館に建つ金太郎のモニュメント



長浜市西黒田に 「金太郎の里」がある

日本全国知らない人はいないといえる金太郎サン。「気は優しく力持ち」のキャラクターは、五月人形でもおなじみだ。しかし金太郎といえば足柄山、それは相模国つまりあしがらやま箱根に近い東国の伝説だとばかり思ってきたのだが……。いやはや近江の長浜に、金太郎伝説が伝わっているとは驚いた。さっそく「金太郎の里」長浜市西黒田を訪ねると、そこには足柄神社があれば、足柄山もある。旧坂田郡で盛んな奉納相撲

足柄山も、足柄神社も、長浜にある！

も、じつは金太郎に由来するのではないかと思えてくる。

西黒田地区で金太郎伝説を活かしたまちづくりが始まったのは、一九九八(平成十)年のことだという。もともとこの地には、古くから

金太郎伝説があった。といつても、それは郷土史に関心を持つ人たちが語る程度で、まちづくりに着手した当初は住民の大半が「あの有名な金太郎サンが？」と半信半疑だったそうだ。

坂田で生まれ育った金太郎

長浜の金太郎伝説とはこうである。金太郎は平安時代中期、近江国坂田郡布勢郷(現在の長浜市西

1)番所(ばんぷところ)と授乳地蔵。金太郎はここで育ったとされている 2)毎年9月に開催される金太郎相撲大会(写真は2014年の大会/長浜市立西黒田公民館提供) 3)本庄町の芦柄神社(明治初年までは足柄神社)。ここにも奉納相撲が伝わる



黒田布勢町)に、この地に勢力のあつた古代豪族・息長氏おきながの一族として生まれた。布勢と隣りあう小こ一条には番所ばんぷところ(ばんふところ)と呼ばれる地があるが、それは「乳母うばが懐かこころ」がなまったもので、金太郎はこの辺りで乳母に育てられたとの言い伝えがある。いまでもお地蔵さんが祀まつられ、母乳を授かる授乳地蔵として信仰を集めているのは、そのよような由緒からだという。

こうしてすくすくと育つた金太郎は、熊岡山(現在の熊岡神社)や足柄山(列見寺山)で熊と相撲を取つたり、舟崎(現在の米原市)の鯉ヶ池でコイに乗つたり、動物たちとかけっこをして遊ぶ怪童ぶりを発揮。やがて青年となり、地元で鍛冶仕事かに就く。当時この地では製鉄業が盛んで、金太郎のトレードマークである「赤い肌」金の字の腹



金太郎伝説で住民一丸となつてまちづくり



掛け「マサカリ」は、古代の製鉄作業を表すというわけだ。

二十歳を過ぎた金太郎に、大きな転機が訪れる。受領として上総守の任期を終えた源頼光が京の都へ戻る途中、琵琶湖に通じる黒田海道を足柄山にさしかかったときのこ

と。頼光は付近にただならぬ気配を感じて、家臣の渡辺綱に探させる。と、そこにいたのが金太郎。頼光に請われ、金太郎は家来として都に上ることを決心。頼光四天王のひとつ坂田金時となつて、さまざまな退治に向いた手柄話は有名だ。

金太郎は 息長氏の子孫か

長浜市の南東部にある西黒田地区は、なるほど金太郎伝説にふさわしい古代史を眠らせている。琵琶湖と伊吹山の間に、臥龍山(通称



1) 西黒田公民館は1999年「金太郎伝説を活かしたまちづくり活動」で「第52回優良公民館文部大臣表彰」を受賞した 2) この大看板もまちづくり活動の一環 3) 手づくりの町名案内板で金太郎伝説をアピール

「横山」がその名の通り龍が伏せたように横たわり、その西麓に西黒田はある。古代、この坂田の地を治めた有力豪族は息長氏。その息長氏の一大勢力を支えたのは鉄生産であったともいわれ、西黒田の布勢町から小一条町には「タタレン」「穴伏」「金神山」「焼尾」といった「たたら製鉄」に関わる地名が多くみつかれる。布勢町の鍛冶屋場庄司は、鎌倉時代になると名剣を打つ鍛冶屋が軒を並べたとされるほどだ。

そんな西黒田でも、住民たちの意識から古い歴史が遠ざかりつつあったころ、金太郎はまちづくりの宝物であるとして、金太郎伝説がよみがえった。まず手がけたのが、地域で行われるすべての行事に「金太郎」の冠をつけること。「金太郎運動会」「金太郎ソフトバレーボール大会」「きんたろう転倒予防教

室」などだ。次に「金太郎のさと、にしくろだ　ここは〇〇町」という町名案内板を手づくりして設置。そして有志で結成した「きんたろう会」が、伝説普及のための出前講座に地区内を駆け回った。

全国伝承地からみた 長浜の伝説

意外なことに、金太郎伝説は長浜のほかにも、全国に数多いのだという。金太郎伝承地は、北は宮城県から南は島根県まで、全国二十カ所以上にのぼるそうだ。そして、その伝承は①金太郎生誕と怪童伝説、②金太郎を育てた山姥の伝説、③成人後の坂田金時の武勇譚と、大きく三つに分けられる。長浜はもちろん①。②は長野、新潟、宮城など山国に伝わり、なぜか山姥が金太郎を育てたことになっている。③は大江山の酒呑童子退治や伊吹山の弥三郎退治など。

全国に数多くの伝承地があるとはいえ、本家本元ともいえる東国

足柄山の金太郎伝説は、神奈川県から静岡県まで六市町にまたがっている。こうして見ていくと、①の金太郎の出自や成長伝説が伝わっているのは、東国の足柄山周辺のほかには長浜だけのようである。

二〇〇二年には「第四回全国金太郎ファミリーの集い」が長浜市西黒田で開催された。このイベントは神奈川県南足柄市から始まり、西黒田地区も同じ伝承地として視察訪問を受けた。その際、南足柄市の方に「坂田を地名にもつのは長浜だ

け。私たちの地と伝説の内容がよく似ており、近江は歴史が古く、都にも近く、伝説発祥の地の可能性も」と一目置かれ、イベント開催地に選ばれた経緯がある。

金太郎伝説はなぜ全国に、これほどまでに多いのか。金太郎は果たして実在したのか。西黒田「きんたろう会」の皆さんは、どこが本家か元祖かというのではなく、あくまでもロマンとして金太郎伝説をふるさと振興に役立て、金太郎を通じて各地の方々と交流し、この伝説を

未来に受け継ぎ、発展させることが大切と強調する。

「地区以外では伝説はまだまだ知られていないですが、子の代、孫の代には誰もが知る伝説にしたい。そのためには親が『金太郎サンはここで生まれやはったんやで』と付け加えればそうなります」と「きんたろう会」会長は語る。「気は優しく力持ちの金太郎サン」は、時代は変われど日本人にとって永遠不滅であるようだ。



4) 坂田金時が退治したという大男「伊吹山の弥三郎」の伝説が残る伊吹山(びわこビクターズビューロー提供)
5) 2002年「第4回全国金太郎ファミリーの集い」には全国の伝承地から約300人の仲間が長浜に集合。歴史ある獅子舞も披露された

Profile

文・写真 ● 黒田正子(くろだまさこ)

編集者・エッセイスト。京都人も知っていそうで知らない身近な“不思議”を追跡する『京都の不思議』『京都の不思議II』を出版。著書はほかに『京都語源案内』『それは京都ではじまった』(いずれも光村推古書院)など。

参考文献／「西黒田の金太郎伝説」(西黒田公民館きんたろう会研究部)、金太郎・山姥伝説地調査グループ編『金太郎伝説一謎ときと全国の伝承地ガイド』(2000年刊)



金太郎伝説地の西黒田

<http://nishikuroda.sakura.ne.jp/>

長浜市西黒田 街づくりセンター ホームページ

また、長浜市西黒田のホームページにも 下記のように金太郎伝承が掲載されている。



金太郎は、平安時代中期の摂関政治全盛時代、天曆9(955)年に近江国坂田郡布勢郷に生まれました。

たいへん大きな赤ん坊でした。

金太郎の親は、明らかではありませんが、当時この地に勢力のあった息長氏の一族として生まれたのです。

息長氏は、天皇家や新羅の王子「天日槍」とも血縁関係にある由緒正しい一族であることから、金太郎は、小一条の諸頭山のふもとにある「うばがふところ」で乳母によって育てられました。その後、金太郎は西黒田の里山を駆け回るいきいきとした少年へと育ちました。

金太郎は、舟崎の鯉ヶ池で鯉に乗ったり、常喜の熊岡や足柄山で熊と相撲を取ったり、横山一帯では動物たちとかけっこをしたりして遊ぶ、元気で明るい子どもでした。

また、足柄神社の奉納相撲にも出向き見事な力を発揮していました。そして、金太郎は少年時代、遊ぶだけでなく、付近の菅原道真ゆかりの名超寺、富施寺などで、学問にも励んでいました。

まさに文武両道の優等生だったのです。

青年となった金太郎は、地元の鍛冶屋で働き始めます。

当時この地は、製鉄業が盛んだったのです。

そして、このころから、広く知られるようになった金太郎の格好になっていったのです。

その格好とは「金の文字の描いた腹掛け」、「赤い肌」、「まさかり」です。



腹掛けは、製鉄作業の際、ふりかかる火の粉を防ぐために着用し、金の文字は「かね(鉄)」を表します。赤い肌は、製鉄作業時の強い火力で熱せられて生じました。まさかりは、製鉄作業に使用する木材を伐採するために持っていたのです。

金太郎は、一生懸命働き、その名声は日に日に高まっていきました。そして、金太郎自身は、息長家の一族として、たくさんの苦しんでいる人々のため、役に立つ仕事がしたいと思うようになっていたのです。

それから数年が過ぎ、20歳となった金太郎に転機が訪れます。天延4(976)年、旧暦3月21日、上総守の任期を終え、黒田海道を上京中の源頼光が足柄山にさしかかったとき、頼光はこの地にただならぬ気配を感じ、誰か素晴らしい人傑がいるに違いないと思いました。そして、かねてから頼光は伊吹山の山賊を退治するため、このあたりの地理に明るい若武者を家来にしたいと思っていたこともあり、家来の渡辺綱に人材を捜させました。そのとき目にとまったのが、金太郎だったのです。

頼光は、金太郎の非凡なる形相を認め、金太郎に名前などを尋ねました。金太郎は「息長の一族で、名前は金太郎。」と答えました。頼光はさすがにと思い、家来にならないかと言いました。金太郎もかねてから、世の中の人々のために役立つ仕事をしたいと思っていたこともあって、頼光の家来となることを決心しました。

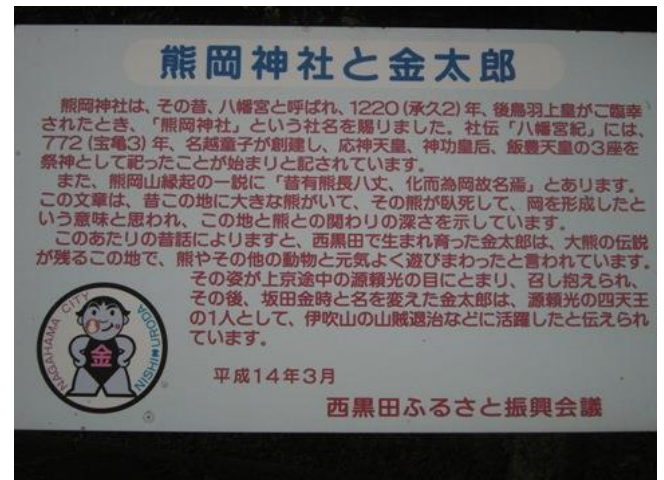
上京後、金太郎は名を坂田金時と改め、頼光のもと様々な手柄をたてました。

そして、正暦5(994)年、ついに金太郎が住んでいた村の人々を苦しめている、伊吹山の山賊を退治することになります。金太郎は、地理に明るいこともあって、一番乗りの大手柄を立て、地元を凱旋しました。

地元の人々は、さすが金太郎だと口々に言いました。

そうして、金太郎は、渡辺綱、卜部季武、碓井貞光とともに、頼光の四天王と称されるまでになったのです。

そして、この地では、金太郎をたくましくて優しい子どもの理想像として掲げ、現在まで尊敬をしているのです。



この西黒田地区は、元々、近江国坂田郡近江坂田の地名から、坂田金時へ
近江の琵琶湖周辺は南も北も古代製鉄の先進地でありたたら製鉄関連地が数多くあり、
湖北にそびえる伊吹山もたたら関連地名であるを知っていましたが、伊吹山の南西山麓に当たるこの長浜周辺と
たたら製鉄とのかかわりについてはよく知りませんでした。まさか息長氏から金太郎でつながるとは・・・・と。
長浜から東へ 関ヶ原を超えた伊吹山の東側山麓には鉄鉱石を算出する金生山 そして鍛冶神金山彦を祭神とする
南宮大社とその北側 井吹の里は鉄に關係した渡来人伊福氏の本拠地である。
また、伊吹山の北にある琵琶湖北岸のマキノ・木之元から金糞岳周辺に至る山郷は鉄鉱石を産し、古代の古橋製鉄遺跡
などもある。琵琶湖の南岸 瀬田丘陵 西岸の比良蓮舩の山裾もまた古代からの製鉄遅滞である。
もうずいぶん足を入れていない湖北・伊吹山 今年是非歩かねば・・・・と思っています。
長浜に鉄鍛冶の子供として育った金太郎の伝承があると聞いて、インターネットを調べて 本資料作成しました。
2018.6.1. by Mutsu Nakanishi



【 参考 和鉄の道・Iron Road by Mutsu Nakanishi 】

1. 鍛冶屋の祭り 「鞆祭り・ふいごまつり」 2004.11.8.
兵庫県三木市金物神社・岐阜県垂井町南宮大社ふいご祭り
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron14.pdf>
2. 瀬田丘陵 の源内峠製鉄遺跡・野路小野山遺跡を訪ねて
大型量産製鉄炉を確立し、 古代官営大製鉄コンビナートに発展させた近江の製鉄技術
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron03.pdf>
3. 日本各地に残る和鉄の道・iron road の風景
<http://www.infokkna.com/ironroad/tatara/tatara05.pdf>
4. 「和鉄の道・Iron Road」 から見た日本誕生前夜の北近江・若狭
www.infokkna.com/ironroad/2011htm/2011iron/11iron17.pdf